

ヴァン・シヨー、シル・ブ・プレ!



河原 多恵子 (かわはら たえこ)
アナウンサー

岩見沢市生まれ。北海道女子短期大学体育科を卒業し、北海道放送(株)へアナウンサーとして入社、以降、数々の番組を担当。ラジオ制作プロデューサーを経て、現在は、HBC-R「多恵子の今夜もふたり言」パーソナリティ。番組では毎週様々な分野からゲストを迎えてインタビュー。大人のトーク番組として聞かれている。趣味は運転・旅・本、街歩き、美術館めぐり。画家・片岡球子のファン。

宣言

友人たちに、「そろそろ人生の時間割りを変えて、生きているうちに訪ねたい10の国と地域を旅する!」と宣言。といっても、秘境や危険地帯を目指すわけではありません。誰もが気軽に旅するところに行っただけでゆっくり滞在し、自然や文化、歴史、言語、その風土と食を存分に楽しみたいと思っています。特に、その土地のテロワール(風土)が育てた「食」、ワインや地酒との出会いが楽しみです。人生で初めて行った外国はアメリカで、19歳でした。小学6年のとき、テレビがようやく我が家にもやってきて、どの子もそうだったように勉強そっちのけで夢中になりました。シンデレラ城から始まるウォルトディズニーの番組を毎週見ながら、いつか必ずここに行くとは決意したようですか? やがて夢はかなうのですが、当時は1ドル360円、海外旅行は贅沢で簡単に出かけられない時代ですから、親にしてみれば、娘をアメリカにやるのは心配であり、経済的にも大変なことだったと思います。夢をかなえてもらったことに、今も心から感謝しています。

さて、どこに・いつ頃・何を携えて旅に出るか? 考えると浮き浮きします。子どもの頃、遠足や修学旅行の準備にそわそわした気持ちと同じでしょう。しかし、この宣言への反響は意外に大きく、「10の国とはいったいどこなのか」「うらやましい」「一緒に行きたい」「本当にひとり旅か」「足腰は大丈夫か」と、友人知人は想像をたくましくして質問を繰り返し、思いがけない方向へ話を発展させます。旅先をしばり込むのは楽しくも難しく、「体力のあるうちに挑みたい」という、こちらの意図に気づいているのかいないのか……。旅は道連れ・世は情けといいますが、「旅はひとり」が私の基本です。これまで旅で受けた数々の親切を胸に、「生きているうちに訪ねたい10の国と地域」を歩こうと張り切っています。

vin chaud, s' il vous plait

ここ数年、年明け早々はフランスに行っています。1月のパリは曇天が続いて寒く、セーヌ河畔に桜が咲いていることもあれば、ある年は積雪と路面凍結がニュースになり、「あら、北海道と変わらない」とがっかり、着膨れて街へ。私はフランス語のファンです。「歌うように語り、語るように歌う」、この語感の美しさに魅せられ、意味がわからないまま「音」に聞き惚れています。花の都パリといわれますが、花咲き乱れる季節を知りません。街全体を覆った冬空が、パリという都市をまるごと美術館にしてしまう1月は美しく、だからこそ通ってしまいます。でもそんな中、いったん太陽が顔を出すと、あちこちの公園や広場に大勢の人が繰り出します。ベビーカーを押す女性、走り回る子どもたち、ベンチでバケットサンドをかじるひと、日光浴をするマダムなど、この瞬間を逃してなるまいと陽ざしをむさぼる光景も素敵です。

そんな冬のパリでよく使う言葉は、ボンジュール、メルシー、そして「ヴァン・ショー、シル・ブ・プレ」。ヴァン・ショーはフランス語でホットワイン。シル・ブ・プレはお願いします。猛烈に甘く、シナモンの香りが立ち込める濃厚な味、そして、やみつきになること間違いなしの熱々赤ワインのことです。柑橘系の果物やリンゴ、様々なスパイスを加えてつくるそうで、小さなカップで1杯飲むと、顔も手もポカポカ。エッフェル塔展望台のカフェでは大鍋でヴァン・ショーを作り、カップぎりぎりまで注いでくれます。それで両手を温めながら街並みを見渡して次の行先を決めたりします。「ヴァン・ショー、シル・ブ・プレ」は身体の芯まで温めるフランス語。最近はホット専用ワイン、ホットワイン用スパイスがティーバッグになって売られていたりします。年末年始に飲み残した赤ワインなどないとは思いますが（笑）、もし残っていたらシナモンやみかんの皮、クローブパウダーなど好みのス

パイス、シュガー、そして、決して高くない赤ワインで我が家風のヴァン・ショーをどうぞ♪

ところで、寒い時に身体が温まる飲み物はまだまだありますね？たとえば、具たくさんのお味噌汁。すすると「しばれるねえ〜」ではじまる演歌、千昌夫さんの「味噌汁の詩」を思い出します。ほかに甘酒、ホットショコラ、ホットミルク、お番茶、^{あつかん}熱燗、エッグノッグ、そして、バタード・ラムも！小樽に居心地が良くて好きなバーがあります。寒い夜、「今夜はホットバタードラムをいかがですか？」とバーテンダー氏がすすめてくれました。バター・ドラムはラム酒とバター、砂糖、スパイスを使ったホットカクテル。ゆっくり味わって飲むうちにポカポカしてきました。（そうか、名前の由来はここにある。確かにドラムが鳴り響くかのように身体が熱くなる気分、「バター・ドラム」ってすごい！）。しかし、これは大きなカン違いだったのです。カクテルの名前は「バタード・ラム」、つまりバター風味のラム。「・」の位置にご注目ください。ドラムが響くわけでもなく、ただただ自分が酔っただけ、でした……。

厳しい寒さが続きます。風邪などひきませんようにお気をつけください。

そして、2012年が希望に満ちた日々でありますように願っています♪

